

釧路市立鳥取小学校

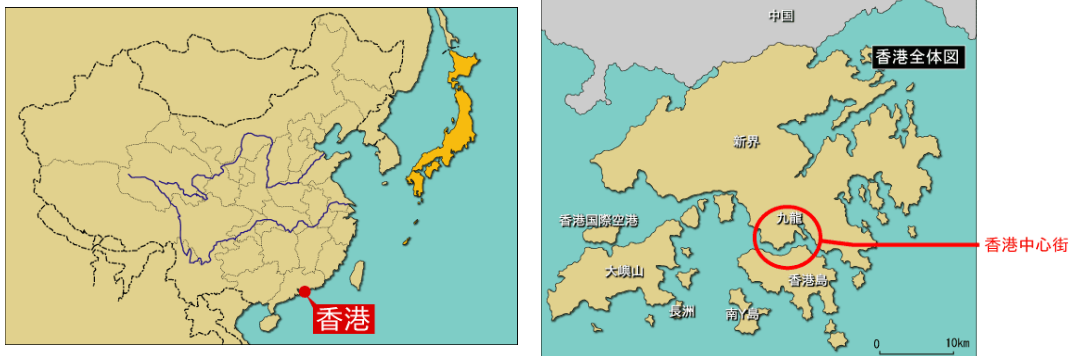
校長 高尾 稔

(派遣国 中華人民共和国)

香港日本人学校小学部大埔校)

1 香港の概要

“国際都市”“多国籍都市” — その名に恥じないじつにダイナミックな都市です。札幌市とほぼ同じ広さを持ち、人口約700万人、6,540人/km²の人口密度は世界で最も高い地域の1つです。通称香港と呼ばれていますが、正式には中華人民共和国香港特別行政区（1997年7月1日イギリスより返還）です。香港島・九龍半島・新界及び南シナ海に浮かぶ235余の大小の島々から成っています。



古くからアジアにおける交通の要所であり、自由港であることから植民地時代より金融・流通の要所でもありました。今日ではロンドン・ニューヨークと並ぶ世界三大金融センターの一つと評価されており、多くの多国籍企業が進出しています。中華圏のみならず世界でも有数の文化発信地となっており、ショッピングや食通の街として栄えていることから世界中の観光客が訪れています。超高層ビルが立ち並ぶ近代的な街並みだけでなく、離島や郊外の丘陵地帯などの自然に触れられる場所など様々な見どころが狭い地域に近接しているのが特徴です。

気候に関して、春・夏は海からの季節風と熱帯低気圧の影響で高温湿潤で、秋・冬は温暖で乾燥しています。秋はしばしば台風襲われ、スターフェリーやマカオへ向かう水中翼船などの船舶や航空機、バスやトラム（2階建て路面電車）路線が運航停止になることもあります。台風の警報が発令されると各種イベントが中止になるだけでなく、学校や企業、官公庁も休業となります。冬は、中国大陸から吹き込む北風が冷たく感じられ、平均気温は14,5℃と低くはないですが、ダウンジャケットやブーツ（女性）着用の姿を多く目にします。

人口のほとんどは「華人」と呼ばれる中国系で全体の約93%を占め、それ以外ではメイドなどの出稼ぎ労働者として働いているフィリピン人やインドネシア人、その次がかつての宗主国のイギリス人です。日本人は約1万4千人居住しています。

生活面について、まず食に関して、レストランや小さな飲食店において中華料理はもちろんのこと様々な種類の料理を口にすることができます。（料金はピンからキリまでですが）また、高級スーパーマーケットをはじめ、街市（がいし）とよばれる市場や地元スーパーなどでいろいろな食材を手に入れることもできます。物価は購入するものや場所によって異なりますが、日本並みの印象です。現地の食品や日用品は比較的安価で手に入りますが、日本製・日本食品は割高です。

住居に関しては、伝統的な村落の形式である切妻屋根の家が地方の集落に一部残っているくらいで、現在ではほとんど見かけることはありません。土地の狭い香港のシンボルでもある（超）高層マンションが数多く建っています。それらは、低層部が工場や商業施設でその上にアパートや庭園付き高層住宅であったり、すべてが住宅であったりといろいろです。いわゆる1戸建ての家はほとんどなく、アパートやマンションの1戸1戸（フラットと呼ぶ）に家族



<維多利亞港（ビクトリア・ハーバー）の風景>



<ビクトリアピークの山頂より望む>

で住むことになり、住宅価格は非常に高いです。治安状況について、人口あたりの犯罪発生件数は東京より低いです。香港在住の方々も香港は治安のよい住みやすい街と評価しており、実際に生活していて私もそう感じました。

最後に教育ですが、公立学校は基本的に9月に新学期が始まり、2学期制をとっています。試験偏重の風潮は日本より強く、小学校でも学期末試験で平均60点以下だと落第（私立）があります。小学校は6年制で公立と私立があり、公立の方がレベルが高いです。授業には英語も取り入れられています。有名私立校には英語で授業を行っているところもあり、大学への進学率が高い中学校を目指し、小学校からすでに受験戦争が始まります。毎日の宿題も多く、やりきれない時は保護者が手伝ったりする例もあるよう

2 学校の概要

香港日本人学校は、日本国政府の海外子女教育施策に基づき、香港に在住する邦人の総意によって昭和41年（1966年）5月、当時の香港政庁により正式に認可された私立学校としてスタートしました。その後、平成9年（1997年）、1,700名を超える児童を香港小から分離し、新界・大埔地区に国際学級を併設した香港日本人学校小学部大埔校が開校されました。現在、香港島にある小学部香港校・中学部、九龍新界エリアをカバーする小学部大埔校、併設の国際学級



<香港日本人学校小学部大埔校>

（International Section 以下、略してISとする）の3キャンパス、4スクールを香港日本人学校経営理事会が経営しています。

大埔校は開校以来17年目の比較的新しい学校です。開校当初は、周囲には新しいマンションがあるだけで緑一面の丘陵地でした。前方には吐露（トロー）湾の穏やかな水面がどこまでも広がっています。学校周辺には、香港でも有名な「香港中文大学」があり、また公立小学校と公立中学

校が隣接しており、研究学園都市として香港政庁が最も力を入れて開発しようとしているところの一つです。さらに大埔カウ公園があり、植物や昆虫、魚や水辺の生き物の学習に利用しています。時々山猿出てきて、食べ物をせがんだりするところが大埔らしい環境です。

学校目標を、「たくましい身体、広い心、自ら学ぶ力、豊かな国際性を養い、人々から信頼され敬愛される日本人の育成」と掲げ、めざす子ども像に「たくましい子」「仲良くする子」「考える子」「豊かな子」としてきました。

特色ある教育活動として、①習熟度別による英会話学習 ②4年生以上の図工を対象とした英語イメージ教育の実施 ③年間通じて行うスイミングスタッフによる水泳指導 ④15分の単位時間を組み合わせたモジュール制カリキュラムの導入 ⑤併設するISとの日常的な交流や現地校との交流、などがあります。

平成25年度は、児童数507名（平成25年4月16日現在）、19学級、文科省派遣教員16名、学校採用教員7名、英会話・図工教員7名、事務職員4名のほか、IS教職員、清掃スタッフ・警備員等、総勢60名を超えるスタッフがいます。

<大埔校児童数の推移>



<学校屋上からの景色>

平成 9年度 226名	平成18年度 563名
平成10年度 376名	平成19年度 557名
平成11年度 424名	平成20年度 560名
平成12年度 529名	平成21年度 524名
平成13年度 628名	平成22年度 461名
平成14年度 654名	平成23年度 465名
平成15年度 571名	平成24年度 496名
平成16年度 666名	平成25年度 507名
平成17年度 612名	

3 特色ある教育活動

① 英会話の授業

ネイティブスピーカー6名の英会話教師による、聞くこと話すことを中心に実際に使える英会話学習を実施しています。これまで、30分授業を1・2年生は週4回、3年生以上は毎日習熟度別クラス（4～6コース）によって行ってきましたが、英会話教師の要望もあり平成24年度から45分授業を各学年とも週3回に変更しました。

英会話授業については、保護者の関心が一番高く、毎年度末に実施する学校評価のためのアンケートでも英会話能力の向上を求める意見が多数あります。日本人学校としても学校をアピールするための大切な要素と考え、『新英語教育プログラム』の実施に向け「新英語教育プログラム計画部会」を発足させました。3校長、事務局（局長・次長）に学校理事より2名出席いただき、数回にわたる部会で検討し、両小学部のカリキュラム統一や小中のつながりなど、香港日本人学校として一貫した英語教育推進に向け平成25年度よりスタートすることとし、準備を始めました。これからは短期的なことから中長期的な視点も含め、検討しながら進めていくと思われま。

② 図工における英語イメージ教育

4年生以上の図画工作は、ネイティブ教師と日本人アシスタント教員がT・Tを組んで英語で指導しています。スタート当初は、英語で教えることにより、図工本来の目標の達成と同時に英会話

能力を養うことができるとの考えにより実施していました。しかし、現在に至るまでにいろいろな変遷がありました。ネイティブ教師自身の思いによる授業づくりからネイティブ教師と日本人スタッフとの考え方が合わず、教師がやめてしまうこともありました。学習指導要領に沿ったカリキュラムを行う目的で派遣教員をメインにし、ネイティブ教師をアシスタントとして行ったこともありましたが。現在は、日本語も少し理解できるネイティブ教師と日本人のアシスタント（臨床美術士として、現地日系幼稚園や個人で仕事をされていた方）で進めています。人件費等による教員の獲得が難しいことやあまり効果が上がっていないイマージョン教育の必要性など、課題があります。

③ モジュール制の授業時間

授業の1単位時間を固定することなく、15分の授業時間を組み合わせたモジュール制によるカリキュラムで授業を行っています。45分授業、30分授業、図工や体育など準備や後片付け等に時間がかかるものには60分授業、漢字練習や計算練習などは15分で集中して行うなど、弾力的にしています。このことは、併設するISの児童と休憩時間が同時に持てることから、児童同士の良い交流時間を生み出しています。

④ 水泳指導について

香港の温暖な気候と屋内温水プールの設備されている大埔校では、年間を通して水泳指導を行っています。毎週1回は必ず水泳指導があります。このことは、運動不足が懸念される香港の生活環境からも体力づくりの面からも良い結果を出しています。

IS担当である複数の体育教師がスイミングスタッフとして学級担任と協力して、能力別に個に応じた丁寧な指導をします。また、彼らは英語で指導することから、英語に慣れ親しみ、活用する時間にもなりえています。

⑤ 国際理解教育等について

大埔校の研究主題は開校以来、「世界に羽ばたく国際人の育成」を掲げ、平成24年度はサブテーマに「自分で考え、伝え合い、主体的に活用・実践できる児童の育成」として、各学年部会と専科部会（主に音楽科）が授業提案をしてきました。

大埔校には、前述の通りISが併設されており、20国籍170名の児童との休憩時間等を利用した日常的なふれあいはじめ、各学年行事として交流を図っています。例えば、1年生は海岸（クリアウォーターベイ）に出かけて砂遊び（サンド・アート）、2年生はお店屋さんごっこ、6年生は水泳大会など定例化しているものや、各学年がそれぞれ状況を考慮し日常的に授業交流（音楽や生活など）もしています。

現地校2校とは開校以来親しく交流しています。一つは、隣接するティンカーピン校で、もう一つは大埔の街にあるWKSメモリアル校です。最近では偶数学年と奇数学年とが互いに訪問したり、受け入れたりして交流を深めています。その他に、ティンカーピン校へ和太鼓クラブの子どもたちが太鼓演奏に行ったり、WKSメモリアル校からは大埔校のオープンハウス（学習発表会のようなもの）の時にライオンダンスやドラゴンダンスを披露してくれたりします。

英会話スタッフとのランチ週間や通学バスのバスマザー（登下校のバス内で児童のお世話をしてくれる現地の方）とのコミュニケーションを図るための広東語の練習（児童の委員会による）もしています。

この他、各学年は社会見学・校外学習として、ごみ処理場、浄水場、森林公園、ヤクルト工場、スーパー・ジャスコ見学、香港空港見学、コンテナヤード見学、博物館、消防署、警察署、街市など、事務局や保護者の通訳ボランティアの協力を得て、現地理解を深めています。

学習した言語(英語・広東語)や母語である日本語を駆使して相手とコミュニケーションを図り、国際人を語るに値する日々の生活こそが大切であると考えています。引き続き、日本人としての自覚と誇りを持たせる教育や日本語を正しく豊かに表現する言語活動や読書活動に思いを注いでもらいたいと願っています。



<現地校との交流>



<校外学習・大埔カウ公園>

4 P T A 及び地元関係諸機関との連携

① 三校連絡会

香港日本人学校3校の連絡調整の会議で、この会議においておおよそのことが決定する大事な場です。小学部香港校・小学部大埔校・中学部からそれぞれ校長と教頭、事務局長、事務局次長(主に香港校)、シニアマネージャー(主に大埔校)の計9名が毎月1回校舎持ち回りで開催されます。協議内容は、毎月の行事予定及び教育活動の確認(3校に関わるものを中心に)、懸案事項の協議(各自が提案可能)、連絡及び情報交換です。

なお、代表校長は3年次の校長が務め、連絡会の司会・記録(議事録作成)は、年度ごと教頭が持ち回ります。

平成24年度より、できる限り校長会・教頭会・教務主任会を開き、それぞれが確認し合える場を持てるようになり、次年度以降定期的に開くことにしました。

② 香港日本人学校経営理事会

日本人学校の経営主体は、香港日本人学校経営理事会です。理事会の構成は、在香港日本国総領事館首席領事はじめ、企業の代表25名の理事で構成されています。(校長も理事の一人です)年5回の定例理事会では、児童数の推移や学校行事等の報告など、教頭が文書を作成し校長が必要事項を報告することとなっています。昨年度は、香港校の校舎改修工事(平成25年8月末完成)や授業料値上げ等の協議がなされました。学校との関係は極めて良好です。

③ P T A

学校との関係は良好であり、保護者の教育に対する期待と関心は高く、それに応える教育内容と指導力が求められます。この2年間で、負担感のない楽しく活動できるP T A組織に替えたいとの趣旨から見直しが図られ、1～5年の各学級より選出された代表1名のクラス委員が、文化部・広報部に分かれて活動しています。6年生は各学級2名のクラス委員は卒業対策委員会として活動しています。また別に学校支援ボランティアとして、読み聞かせ・デコレーション・通訳・P C(パソコン)等に登録していただき、様々な支援をいただいています。さらにP T A企画として、いろいろ工夫されたイベントや学校の施設援助もしていただきました。私の在任期間中でも、屋外用掛け時計・ロックライミングウォールの設置、学校内にある茶室を利用し裏千家淡交会による「茶道教室」の実施、小学部2校のP T A共催による『五体不満足』の著者乙武洋匡(おとたけひろた)氏の講演会などがありました。



<ロッククライミングウォール>



<茶道教室>



④ 通学バス利用者会

登下校の際は、ほんの一部の児童を除き皆スクールバスによります。スクールバス利用に関しては、学校管理から切り離し、利用者の任意によるものとして運営され、会長はじめ役員は保護者が担当、学校の事務局員が利用者会の事務局員として兼務し窓口となり、実務は正副委員長を中心にバス幹事会が行っています。(平成24年度は大型バス13台運行)

スクールバスが通っていない地区に住んでいる場合、「自主通学」として届け出をし、保護者の自家用車や公共交通機関(バスやタクシー)、徒歩などで通学しています。

⑤ S I S (スポーツ・インターナショナル・サービス)

大埔校には学校の施設設備を利用して、放課後にスポーツ等を教えてくれる会社(S I S)があります。その種類は、水泳・サッカー・野球・バドミントン・体操・空手・ロープスキッピング・タップダンスの他、日本語補習教室もあります。希望する児童たちは、その日は下校バスに乗らず、いろいろな活動して帰ります。大埔校児童だけではなく多くの香港人の子どもたちも参加しています。会費や規約、責任等、学校は一切かかわらないことになっています。とはいえ、I Sの体育授業関係はこのスタッフが担い、前述したように本校の水泳授業の指導者もこのS I Sのスタッフにお願いしています。

5 その他教育支援

① 地元日系企業等による教育支援

- ・全日本空輸(ANA)による4年生対象の「航空教室」機長、客室乗務員、整備士等が来校。
- ・日本航空(JAL)による5年生対象の「香港空港見学」。
- ・読売新聞社による全校児童対象「朋友」欄への作文掲載。
- ・大埔工場地区にある3年生対象の「ヤクルト工場見学」。
- ・コーンヒルにある3年生対象の「スーパー・ジャスコ見学」バックヤードの見学もあり。
- ・5年生対象の「コンテナヤード見学」。
- ・東京海上火災のご協力により、4～6年生対象でWWF主催の環境学習「アースアワー」I S(3～6年)と一緒に学習。

② 現地諸機関による教育支援

- ・日常の教育活動の様子、イヤーブック用(大埔校は卒業生のみならず、全員購入可能なもの)写真などすべてプロのカメラマンに依頼。保護者の希望する写真もインターネット販売で可能。
- ・大埔警察署による「交通安全教室」(全学年対象)の開催。
- ・4年生社会見学～「浄水場」「ごみ処理場」。
- ・香港歴史博物館、大埔鉄道博物館、香港地質公園等への無料見学。

6 課題事項等

- ① 日中関係が思わしくないことから、これまでの中国国内への旅行先の変更が生じました。子どもたちの安全面の確認や保護者の不安感の払拭を考え、北京での修学旅行（6年生）、広州での学習旅行（5年生）を止め、基本的に遠足・集団宿泊的行事を見直すことにしました。
- ② 運動会の会場について、ここ数年間教育学院グラウンドで実施してきました。学校から近くて便利であることやスタンドの大きさも手頃で、関係者とのつながりも深くなっています。しかし、練習時や本番当日の使用料の問題（高い）や交通手段が少々不便（観覧に来る保護者等にとって）なことが課題になっています。
- ③ 児童の実態が多様化しており、個に応じた教育の推進が一層求められています。
（国際結婚により日本語の環境にない児童、障害を持っているのか判別しにくい児童、現地幼稚園等との学習規律等の違いによる不適応児童、特別な配慮を要する児童など）
平成25年度より特別支援教室の設置
- ④ インターナショナル校に劣らない英会話授業の充実
香港日本人学校としての英語教育（英会話を含め）に関してどのように進めるかを検討し、方針等の決定。
- ⑤ IS児童との真の友達づくりに向けた具体的な取組の推進
- ⑥ 開校当時からの大埔校の特色に対する見直し
 - 図工における英語イメージの必要性（香港校との関係で足並みをそろえる必要）
 - 年間を通じた水泳学習
 - モジュール制の日課表

7 終わりに

2度目の日本人学校勤務として仕事内容も学校規模も土地も以前と違い、自分がはたして無事に務まるか不安がありました。これまで大埔校が10数年の歴史の中で築きあげてきたものをいかに継承していくか、さらにより良いものへと変えていくかを、一番に考えて過ごしました。幸い職場を共にした教員や事務スタッフの協力によって大きな事故事件もなく任期を終えることができました。

ほぼ毎日朝と帰りの出迎え・見送りで子どもたちと交わす“おはよう”“さようなら”の挨拶を通して、私は元気をもらうことができました。また職員に対し、「職員室が明るく元気で、先生方の仲が良いことは絶対に子どもたちへ良い影響が及ぶ」とよく話していました。さらに、子どもたちに対してはもちろん、保護者含め来校者に対し、そして職員間での「目配り」「気配り」「声掛け」をお願いしてきました。それが忠実になされ、皆一丸となって子どもたちの教育にあたることができました。

最近「グローバル人材の育成」という言葉を目にします。本校の研究課題は「世界に羽ばたく国際人の育成」です。“国際人とは”、“グローバル人材とは”、これらを語るに大切なことは、お互いを理解し、相手の立場に立って行動ができる心の教育にほかならないと思います。したがって、これまで学校教育で大切にしてきた、身の回りすべての人権を尊ぶこと、誰に対しても優しく思いやりをもって接すること、他人に流されるのではなく自分の考えをしっかりと持つこと、心身とも健康でよりよい生活を目指すこと、何事にも真剣にまじめに取り組むこと、たくさんの友だちをつくり仲良くすること、いつでもどこでも誰にでも気持ちのよい挨拶ができること、問題が起きた場合、

話し合いにより解決しようとする事、乱暴な言葉や暴力をふるう事は絶対しない事、そして学習した日本語や外国語を駆使して相手とコミュニケーションを図る事。こうした日常の学校生活・家庭生活こそが「国際人を語るに値する日々の生活」であると思います。これまで日本人として当たり前と考えてきたことでもあり、海外だからといって特別なことはなく世界中どこでも大切にしなければならない人としての在り方だと思います。

